

煤の試験

一、試験の概略
試験は、煤の質を調べるために行われ、主に揮発分、灰分、水分、固定炭素の4項目を測定する。

二、揮発分の測定
揮発分は、煤を加熱して発生する気体の重量を測定する。測定方法は、煤を一定量の坩堝に入れ、一定温度で一定時間加熱し、発生した気体の重量を測定する。

三、灰分の測定
灰分は、煤を高温で焼くことで残る不燃物の重量を測定する。測定方法は、煤を一定量の坩堝に入れ、一定温度で一定時間加熱し、残った不燃物の重量を測定する。

四、水分の測定
水分は、煤を乾燥して減った重量を測定する。測定方法は、煤を一定量の坩堝に入れ、一定温度で一定時間加熱し、減った重量を測定する。

五、固定炭素の測定
固定炭素は、煤の重量から揮発分、灰分、水分を差し引いた残りの重量を測定する。測定方法は、煤を一定量の坩堝に入れ、一定温度で一定時間加熱し、残った重量を測定する。

結果

揮発分 15.2%

灰分 12.5%

水分 8.1%

固定炭素 64.2%

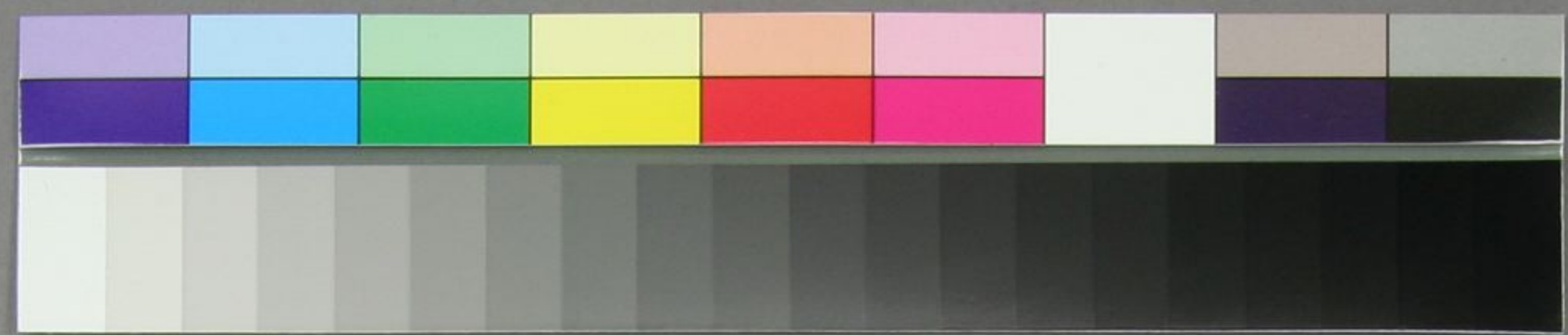
揮発分 15.2%

灰分 12.5%

水分 8.1%

固定炭素 64.2%

揮発分 15.2%



の並ぶる力四噸三百

しきくハ鳥糞子出炭

ハ英炭ハおもしろく三百

十とハ成積しつす

唯有烟とピツチをる

二十かゝるの煤がら多

うりハ佛国ハ煉炭

ハ此ハハち少ハハあり

立合頁トハ所分

ておハハ油ハ来ル廿五ハ

海軍者ハハ油を命成

用ハ上ハ社ハハハ

ハハハ鳥糞子ハハ

炭法活ハハハハ

積平均二十と村を成保

ハハハ煉炭ハハハ

者ハ量ハ四噸ハハハ

分ハハハハハハハ

並ハハハハハハハ

是ハ亦成積ハハハ

サハハ水雷艇ハハ

最速ハハハハハ

生収ハハハハハ

火力ハハハハハ

ハハハハハハハ

是は本成候より

中へ水雷艇・試

最速力也七十一横濱

生返り 火力は

常あり 艇負あり

あり 炭・英炭を

清きり 火力は

蒸機より完きある

駆控力もよく也

甲一力あり

右白一寸葉揚ね

あり 小艇

あり 葉上物

あり 葉上物

あり 葉上物

あり 葉上物

大隈泊券六下

再白

煤の多い金く有烟の十二
ピツ午のハヤカハ
因り火付あると
ぬる多量か
漱回
ピツ午
そハ分可
火付玉
て
右
品有烟
かハ
ピツ午
は
五
て
ナカ
は
ハ
イ
製造
煤
を
減
ら
す

大環のまゝ

必親座





中島信太郎